

教えるから 共に学ぶへ ⑬-2

今治市立菊間中学校
担任 橋本 孝大

お忙しい中、人権・同和教育参観日に対するご感想をお寄せくださり、誠にありがとうございました。授業で取り上げました「5万日の日のべ」についての感想、差別に向き合うご自身の姿勢、そして子どもたちが真剣に考える様子へのご意見などたくさんありました。ご家庭での道徳教育の様子もうかがえ、大変心強く感じております。以下に、保護者の皆様から頂いたご感想を一部紹介します。書面の都合上、全てを掲載できないことをご了承ください。今後とも、子どもたちの道徳心と豊かな人権感覚を育む授業づくりに努めてまいりますので、引き続きご協力・お力添えをよろしくお願いいたします。

解放令が發布された後でも、人々が苦しんでいたという実際の実情を学ぶことは、子どもたちにとってもいいことだと思いました。

学校で差別やいじめについての学習も増え、子どもたちも考える機会が増えたのではないかなと思います。これを機会に家でも人権について話し合うことができればと思いました。

中学校で人権・同和教育を行っていることに感謝します。教育を受けてきた大人の中にも「人権教育とはどんなものでしょう」と尋ねられて答えられる人は少ないと思います。子どもたちの意見を読ませていただいて、人権に対する思いが深まっていることを感じました。私も子どもからたくさん学んでいきたいと思います。

資料の中にある差別に腹が立ちました。一緒に平等になると自分たちの生活が脅かされると勝手に想像し、嘘を並べるなどとても悲しいことです。人権・同和教育が進み、部落問題等が少なくなっているように感じますが、完全ではありません。年配の方などには「あの子はどこそこの子…」など、未だに言われます。このようなことがない暮らしができるようになればと感じました。

差別をなくすためのいろいろなことを考えるだけでなく、行動に移していかないといけないと思いました。その行動を起こすために、勇気が必要な子が多いのかなと感じます。

